



# 山口としや 通信 第36号

## 皆さまのおかげです

いつもご支援ありがとうございます。3085 票という期待をいただきました。皆さまのおかげです。感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも白山市にとって必要な施策を、地元が元気になる施策を提案していきます。

市民目線を大切に、まじめに熱意を持って活動していきますので、今後ご支援よろしくお願いします。

寒い中でも訴え続けました。(提供：北井正義さん)



ブログ読んで下さい!



## 2021年3月議会報告

## 新型コロナウイルス、まだまだ支援が必要では

(質問) 1月～3月にかけて1都2府8県に緊急事態宣言が出された結果、市内でも自粛ムードが高まり、市民や事業者が苦しい思いをしているのでは。実態調査すべきでは。  
→(市長) 観光業においては、定期的に状況把握している。また、事業者の方々には、白山商工会議所及び各商工会の3月会報に市が作成した「新型コロナウイルス感染症の影響にかかる緊急アンケート」を挟み込み、実態調査を行っている。

(質問) もう一度、市として行った市民、事業者向けの直接支援が必要では。

→(市長) 緊急アンケートの集計結果も踏まえて、国や県の施策とも連携した中で、必要な対策を講じていきたい。市民生活への支援策についても、今後の感染状況や他市の状況を勘案しながら、適切に対応していきたい。

(質問) 医療従事者に市として何らかの支援を行い、感謝の気持ちをあらわしては。

→(市長) 県においては国と連携し、コロナ患者を受け入れている公立松任石川中央病院に対して、今年2月までに5億7000

万円の協力金が交付されている。また、従事者の慰労金として、一人あたり20万円が交付されている。また、県では、衛生用品や感染防護具などの費用を支援している。

市としては、国県の補完的な支援として、特殊勤務手当の費用の全額を支給したほか、消毒液、医療用マスクなどの配布を行っている。今後も支援をしていきたい。

(質問) 医療従事者に国から出ている費用が渡っているのか。

→(健康福祉部長) 特殊勤務手当や、国からの慰労金20万円も直接渡っていると確認している。

(質問) ワクチン接種がはじまるが、高齢者施設へ出向いての接種が必要では。

→(市長) 介護施設等に入所している方の接種については、当該施設の嘱託医によって実施される予定となっている。

(質問) どのタイミングで行われるのか。責任者は国・県・市のどちらか。

→(健康福祉部長) 国が責任を持って対応する。摂取時期は、高齢者の接種の後、基

礎疾患を有している方や高齢者施設の入所者となっている。

（質問）ワクチン接種がスムーズに接種できるように集団接種の会場への送



4月末からワクチン接種始まります。

迎も考えては。

→（市長）現在市内5カ所に設置予定の集団接種会場への送迎について、石川県バス協会などと協議をしている。ルートや時間帯などについては、今後詳細を詰めていくこととなるが、土曜、日曜に無料の送迎バスを運行したいと考えている。

（質問）3月4月は県外大学への入学や就職、歓送迎会や花見のシーズンになる。4月末からはゴールデンウィーク期間になる。感染拡大の可能性が高い。更なる啓発が必要では。

→（健康福祉部長）市広報やホームページ、

あさがおテレビを通じて情報提供するとともに、市長からのメッセージで感染拡大防止対策への協力をお願いしてきた。今後も、新しい生活様式の徹底を継続できるよう、あらゆる機会を捉え啓発していきたい。

（質問）やむ応得ず、県外に行って、帰ってきた市民の方へPCR検査の助成をしては。

→（健康福祉部長）検査を希望する方のPCR検査を行うと医療機関への負担を招く可能性があり、市の制度としてPCR検査助成については慎重な対応が必要ではないかと考えている。

（質問）無症状でウイルスを持っている方が知らず知らずのうちに感染を広げているのが、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止できない一番難しいところ。PCR検査は有効では。

→（健康福祉部長）感染が広がっている時期には適当ではないと考えている。市として制度的に行っていくことは慎重に対応していく必要があると考えている。

**としやチェック**

もうしばらく、コロナ禍は続きます。厳しい生活にある方はたくさんおられます。これからも市としての支援を求めていきますし、ワクチン接種がスムーズに行くよう提案していきます。

## アフターコロナは体験型観光で

（質問）アフターコロナを見据えて、体験型観光の商品化をどんどん進めるべきである。現状は。

→（観光文化スポーツ部長）旅行者の消費ニーズは「もの消費」から「こと消費」へ既に移行しており、今日では「とき消費」ともいわれている。現在、市観光連盟が中心となり、約20に及ぶ着地型旅行商品を販売している。

（質問）更なる開発を。

→（観光文化スポーツ部長）白山総合車両所を拠点として、産業観光に向けた検討を進めている。さらに、日本遺産に認定された北前船、サイクリングなどのツアーの商品化についても、市観光連盟が中心となり、検討を進めている。

（質問）市観光連盟の強化が必要では。

→（観光文化スポーツ部長）市観光連盟と

産地や事業者等との連携強化を図ることは不可欠。2020年度に観光未来プロジェクト部会と新ご当地銘品開発部会を設置した。仮称白山総合車両所ビジターセンター内に計画されている観光情報センターの活用と運営も見据え、人材育成など、機能強化を図っている。

（質問）人的な強化が必要では。

→（観光文化スポーツ部長）観光産業が儲かる仕組みを作ることと、観光連盟自体が稼ぐ力をつけることが大切で、そこで人的な強化に結びつかないかと考えている。

（質問）伝統工芸の体験のための施設整備が必要では。

→（観光文化スポーツ部長）太鼓や牛首細などは、すでに体験施設がある。また、体験施設には技術を指導する職人が必要であることから、市としての整備は考えていな

いが、ツアーやPRなどの面で支援したい。

（質問）市民の方に知って頂く、市民向けの体験会を開催しては。

→（観光文化スポーツ部長）伝統工芸品の産地をめぐり、体験や実演の見学を盛り込んだバスツアーを計画している。その他、市内各地で様々な体験が可能となっており、市民の皆さんには、マイクロツーリズムとして気軽に体験して頂きたい。

（質問）モニタリング的な体験会をしてみては。

→（観光文化スポーツ部長）モニター的にできないか、検討していきたい。

### としゃチェック

アフターコロナを見据えて、今は様々な戦略を練る時期です。本市の自然、文化、伝統工芸、伝統芸能、産業は魅力的で、これらを生かす体験型観光は大きな武器になると考えます。

## 道の駅、白山ブランド、小さな拠点を問う

（質問）コロナ禍にあって、道の駅めぐみ白山はトラックなどで、夜間の利用者も多いです。利用者からシャワー室がほしいと聞くが、整備しては。

（副市長）計画段階で検討したが、見送った。また、お客様の声の回収ボックスを設置してあるが、これまで、シャワー室の要望は聞いていない。感染予防策を講じるのも難しく、今のところ、考えていない。

（質問）本市の農林水産物ブランド品の名称の頭に「白山」をつけて、統一しては。

→（産業部長）本市では、10品目を白山市農林水産物ブランドに認証している。ブランド品の頭に「白山」をつけることで、産地が特定され、ブランド品の認知にもつながる。今後、JAや生産者と協議し、白山市農林水産物ブランド認証協議会で検討していきたい。

（質問）市内各事業者が様々な名前をつけている農林水産物の頭にも「白山」をつけて販売するようお声かけできないか。

→（産業部長）全ての商品に白山の冠を入れることは、統一感もあり、認知度が上がり、消費拡大につながると考えられるが、生産者の商品名に対する愛着やこだわりはある。また、商法登録やパッケージなどの印刷など経費も発生する。まずは、生産者

（質問）村井町にある埋蔵文化財センターは、手狭で耐震もできていない。新築が必要では。

→（観光文化スポーツ部長）出土品の保管スペースもない状況。出土品の適正な管理の在り方については、引き続き研究していきたい。

（質問）作業風景が見学できたり、体験できる、観光に結びつく施設ができないか。

→（観光文化スポーツ部長）どのような手法で実施することが効果的か、今後研究していきたい。

あるいは関係団体に対し「白山」をつけることに対する意識調査を行い、その上で対応を検討したい。

（質問）ジオパークのキャラクター「ゆきママとしずくちゃん」を活用しては。

→（産業部長）民間で利用している事業所



ゆきママとしずくちゃんの活用を

もある。検討したい。

（質問）20年3月に策定された都市計画マスタープランの白山ろく地域の方針に小さな拠点の形成と明記してあるが、進展はあったのか。

→（企画振興部長）小さな拠点の形成には、その地域に生活する住民のニーズや持続可能な取り組みが重要。市からの支援を受けつつも、住民や地域が主体となって、持続的な取り組み体制を確立することが不可欠である。本市では地域コミュニティ組織の立ちあげの中で取り組んでいる。現在白峰地区では、NPO法人白峰まちづくり協議会が主体となって取り組んでいる。

（質問）責任部局はマスタープランをつく

った建設部なのか、白山ろく活性化担当の企画部なのか。

→（企画振興部長）企画部協働推進課が取り組んでいる市民協働で創るまちづくりを

進める中で、関係部局と連携し、白山ろく地域の集落生活圏維持に向けて地域を支援していきたい。



小さな拠点の形成は、過疎化が進む白山ろく地域にとって大変重要な施策と考えています。市と地域が協力し合いながら、住み続けられる白山ろく地域を目指すべきと考えます。

## 35人学級が導入されます

（質問）20年度、全小中学校にコロナ対策のスクールサポートスタッフが配置されていたが、21年度の予算に計上されていない。4月から配置すべきでは。

→（市長）4月以降のスクールサポートスタッフの配置事業については、国や県は事業を行うこと自体は示しているが、詳細について説明がない。市として、国、県の指示を待つことなく、4月以降も引き続き全校に配置していきたい。

（質問）20年度配置されたスクールサポートスタッフがそのまま雇用されるのか。

→（教育部長）4月からも引き続きお願いできないか、お声かけをしている。

（質問）国において35人学級が21年度からスタートする。小学校2年生から毎年拡充され、25年度には小学校全学年が35人学級となる。一方、小学校2年生から4年生までと中学1年生は県の施策で35人学級となっている。国の施策で35人学級となった場合、県の施策は廃止するのではなく他の学年の拡充へと前倒しすべきと県に要望しては。

→（教育長）県は21年度は小学校3年生と4年生、中学校1年生において35人学級を実施する。他学年への35人学級拡充に関しては、本市としても、丁寧できめ細やかな指導、質の高い教育が実施できる捉えている。従って、県が行っている35人学級を他学年へと拡充するよう、県へ強く要望したい。

（質問）他の市町の教育長とともに県に要望できないか。

→（教育長）市町教育委員会連合会があるそこで提案し、全体で要望していきたい。

（質問）21年度予算にSDGs教育推進事業が盛り込まれている。SDGs未来都市を目指す市の方針とも合致している。事業の目的と内容は。

→（教育長）目的は市内小中学生がSDGsへの理解を深め、興味関心を高めること。21年度は白山市SDGs



SDGs大使のぶんぶんボウル

大使のぶんぶんボウルによる小学校への普及啓発を継続しながら、すでに学校で行っていることにSDGsを関連付けながら取り組みを行っていく予定。

（質問）教育長は常々、「学校現場はスクラップ・アンド・ビルドがされない、常にビルド・ビルドのそういった現場だろうと思う」と本会議でも答弁している。そのような心配はないか。

→（教育長）学校ですでに行っていることに関連付けて行う。例えば、すでに行っている海岸清掃をSDGsの目標の一つである「海の豊かさを守ろう」に結びつけた取り組みとするなどを想定しているので、多忙化につながらないように配慮をしている。



21年度から5年かけて、小学校の1クラスの人数の上限が35人になります。これが、中学校、高校へと拡大されるよう、また、本市の小学1年生のように30人学級を目指して取り組んでいきます。

※市政へのご意見、ご要望をお寄せください。

e-mail : toshiya6537@yahoo.co.jp

TEL : 275-0179

FAX : 275-0924